

まえがき

第1編の刊行から2年の時を経て、ここに第2編をお届けできる運びとなりました。第1編の作成時には全行政区を網羅する力および時間が不足しておりましたが、今回、改めて各地区を回り取材を重ねたことで、ようやく飯舘村全20行政区の記録を揃えることができました。

本書で焦点を当てるのは、第1編ではご紹介できなかった、伊丹沢、関沢、八木沢・芦原、大倉、佐須、宮内、長泥、蕨平、前田、二枚橋・須萱の10行政区です。同じ飯舘村という一つの大きな枠組みの中にありながら、それぞれの行政区は異なる表情を持っています。狭隘な地形を生かした地区もあれば、街道沿いに発展した地区もあります。避難指示解除の時期や復興の歩みも一様ではありません。私たちは取材を通じ、それぞれの土地に根差した「行政区」という単位が、住民の方々の暮らしやつながりを守るための、何よりも強固な拠り所であることを改めて感じました。

本書の制作にあたっては、第1編の姿勢を踏襲しています。内容は、戦後から現在にかけての比較的近い時期の情報を中心としました。特に、現在の行政区がどのような体制で運営され、日々の活動が行われているかという点に重きを置いています。より古い時代の歴史については既存の村史等に譲り、本書では行政区長への聞き取り調査を基に、私たちが現地で見聞きした内容と、実際に撮影した写真を記録としてまとめました。

本誌作成にあたり、取材に協力いただいた10行政区の区長の方々には、お忙しい中、私たちのために多くの時間を割いていただきました。また、飯舘村役場の皆様には資料提供等の変わらぬご支援をいただきました。全20行政区の区長の方々をはじめ、私たちの取材活動を受け入れ、協力してくださったすべての皆様に、深く御礼申し上げます。

全2編となったこのずかんが、飯舘村の「今」を伝える記録として、そしてこの地域を語り合う際の一助として、末永く親しまれることを願っています。

※本事業は、大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業の「飯舘村における将来世代への復興知継承に向けた教育研究プログラム」(代表：溝口勝)の支援を受けています。ここに記して謝意を表します。